

4. 児童生徒の運動 時間確保に向けた 教材・場の改善と指 導者派遣の効果検証

1. 鹿屋市立祓川小学校の
サポート事例
2. 鹿屋市立小中一貫校花岡学園
のサポート事例
3. 鹿屋市立吾平小学校の
サポート事例
4. 垂水市立新城小学校の
サポート事例

運動時間
確保

4. 児童生徒の運動時間確保に向けた教材・場の改善と指導者派遣の効果検証

<事業概要>

学校における児童生徒の運動時間確保に向けた取組の工夫・改善を図るため、各種運動の専門的知識・技能を有する大学生等を授業内外の取組への協力者として派遣する。このことによってもたらされる成果と課題を明らかにする。

1. 鹿屋市立祓川小学校のサポート事例

(1) 鹿屋市立祓川小学校について

創立143年の伝統ある祓川小学校は、「心豊かでよく学びたくましく生きぬく児童の育成」を目指し、日々活動されている。全校児童数は70名で、各学年7～15名の小規模校である。本年度から鹿児島県「運動大好き“かごしまっ子”」育成事業推進校として、体力向上に励んでいる。



(2) 運動サポートの計画及び実施に向けての課題

鹿児島県「運動大好き“かごしまっ子”」育成事業推進校の認定を受けたことを契機として、教員間で話し合いをもち、授業内外での体育指導の工夫を図っている。今年度より、体育授業については、小学校第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年と2学年合同で2人の教員によって行っている。チームティーチングとすることでICT活用をより進めやすくする環境を整えたが、活用の在り方について試行錯誤している段階である。県や市のバックアップを受けながら、校内研修、研究授業等を通して、よりよい体育授業の在り方を模索している。また、新体力テストに年2回取り組むこととしているが、全般的に数値が低く、特に柔軟性に課題があり、改善したいと考えている。

授業外の取組として、体力向上のための朝の体力づくり、鹿屋市陸上記録会に向けた放課後の練習などがある。朝の体力づくりについては、昨年度より児童会の体育委員会が中心となって曜日毎に取り組む内容を定めて取り組んでいる。鹿屋市陸上記録会に向けた放課後の練習については、大会前に全教員で役割分担をして取り組んでいるが、陸上競技経験に乏しく実技指導をすることに自信のない教員がほとんどである。

運動サポートにあたっての課題は主に以下の通りであった。

- ・ 児童が気軽に活用できる動画等の学習資料を作成したいが、その時間確保が難しい。
- ・ 体育そのものを研究対象として取り扱った経験がある教員が少なく、どのような授業を行えばよいか自信をもてない教員が少なくないので、いろいろな観点からよりよい授業づくりをしていきたい。
- ・ 放課後の陸上記録会練習や朝の体力づくりで、生徒個々の活動意欲に差が見られるため、その喚起を図ったり、より専門的な技術指導を行いたいと考えている教員がほとんどである。

(3) 運動サポートの実際

大学からのサポート内容を以下に示す。

① 体育授業のサポートと研究授業、授業研究への参画

「3・4年 E ゲーム イ ネット型ゲーム『プレルボール』」と「5・6年 E ボール運動 ア ゴール型『バスケットボール』」のサポートと研究授業、授業研究に、大学教員2名と学生4名が参画した。

授業サポートについては、学生がティームティーチングのT3, T4…という立場で指導補助に当たり、チームや個の練習内容の選択についての話し合いに加わったり、練習補助や場の安全確保を図ったりするなどした。

授業研究については、祓川小学校教員や鹿屋市教育委員会指導主事、大隅教育事務所指導主事と連携を図り、よりよい授業にするためにどうすればよいかについて意見交換をした。



写真1 体育授業のサポートの様子

② 授業内外で活用する学習資料の作成

祓川小学校のニーズに応じて、学習資料を作成し、提供した。提供した資料は、動画に動きのポイント等を文字等で示したものである。小学校教員、児童がタブレットで視聴し、活動の充実に役立てた。作成した学習資料は、走り方に関する学習資料、バスケットボールの基本的な動きに関する学習資料、ストレッチの行い方に関する学習資料である。



資料1 バスケットボールの基本的な動き，ストレッチの行い方に関する学習資料

③ 放課後の鹿屋市陸上記録会に向けての練習のサポート

100M 走，ハードル走，リレー，走り幅跳び，走り高跳びの練習のサポートを行った。学生6名が，各種目担当の教員の指導補助に当たった。



写真2 陸上記録会に向けての練習のサポートの様子

④ 朝の体力づくりのサポート

8:00～8:10に全校で取り組んでいる朝の体力づくりのサポートを行った。学生5名が、曜日毎に設定された活動のサポートに当たった。

月…短縄跳び、火…長縄跳び、水…サーキットトレーニング、木…長縄跳び、金…ランニング。



写真3 朝の体力づくりのサポートの様子

(4) 運動授業サポートの成果と課題(小学校教員の視点から)

小学校教員のインタビュー結果を以下に示す。

①鹿屋体育大学と連携した運動サポートを実施しての成果

活動全般を通して、子ども達が体育大生に関わってもらえることを喜び、よい所を見せたい、アピールしたいといった思いも働き、どの取組でも意欲がとても高かった。学生さんに見られるということで、先生方の授業内外への取組に対しての意識が高まり、教育活動そのものが充実したと感じる。教師間にはりが出たと感じるし、学校経営にとっては大きなプラスとなった。

授業については、グループの話合いや練習にも関わっていただいたことで、子どもたちに手厚い指導をすることができた。個やグループへの関わりでは、授業のねらいに沿った活動となるようアドバイスをしたり、危ないよう気を付けてくれたりしていたことがありがたかった。

授業研究については、教師とは違った視点、ピュアな見方で指摘をしていただいたことがよかった。新鮮な発見があった。

学習資料については、読み仮名やBGMなどの配慮がしてあり、わかりやすく活用しやすいものを作成してただけだ。

朝の体力づくりについては、縄跳びの回数を数えたり、アドバイスをしたりしてもらったことで、子どもたちの活動意欲が高まり、参加率が向上した。定期的に来てもらったことで、子どもたちは、安心して話をしていた。大学生との交流を楽しみに早く校庭に出てくる子どもが増えた。ジョギングについては、走るスピードが上がり、歩く子どもがいなくなった。

放課後の陸上記録会練習では、準備や練習を一緒にやってくれて助かった。助走の仕方やバトンパスなど熱心に教えてくれたり、応援したりしてくれたので、子どもたちは例年になく意欲が高く、日記などにも練習のことを書くことが多かった。

②鹿屋体育大学と連携した運動サポートの課題

時間を確保することは容易ではないが、事前に入念な打合せをすることができるとよい。

もっと具体的にどのように関わってほしいとか、誰とかどのグループに重点的にといったことを示すことができれば、遠慮することなく関わりをもってもらえると思った。

授業の進捗状況をコントロールして、関わってもらえる日時に合わせるのが難しかった。

③鹿屋体育大学と連携した運動サポートで、児童が特に身に付けることができたと考えること

体育授業や体力づくりに限らず、めあて意識をもって意欲的に活動に取り組むこと。

体育授業でタブレットを活用して、自分たちの動きややりたい動きを説明すること。大学生がよく話を聞いてくれるので、よい所を見せようとそうなったと思う。

登校時間や朝の活動をスタートする時間が早まったこと。粘り強く走ったり、縄跳びを跳んだりすること。

④今後のサポートの在り方

可能であれば、いろいろな単元で授業サポートや学習資料作成をしてもらいたい。具体的には器械運動や水泳など。授業の中で手本となる動きを見せてもらうなどができるとありがたい。

事前に入念な打合せをする時間を確保できれば、よりよい取組になると思う。

(5) 運動サポートの成果と課題(大学生の視点から)

学生へのインタビュー結果を以下に示す。

①運動サポートの成果(役立ったこと、新たな気づき等)

将来教員になるに当たって身に付けるべき指導技術を確認できたし、技量不足を痛感できた。学習資料やカードの提示の仕方、見学者への指示の仕方、子どもたちの注目のさせ方、意識の引きつけ方など、生の授業に関わらせていただくからこそわかることが多くあった。

小学生と関わることや先生方と会話を交わすのはとてもおもしろく、学校に顔を出すことが楽しみになっていた。朝の体力づくり前にあいさつ運動や清掃に取り組む子どもがいることに驚いた。また、それらのことが鹿児島県の小学校の当たり前の光景であることを聞き、さらに驚いた。

児童の名前を覚え、名前を呼んで話しかけるととても喜んでいたので、改めて顔と名前とを一致させ、名前を呼んで関わることの大切さを確認できた。先生方は、よく名前を呼んで話しかけることにも気付かされた。

②運動サポートの課題(困ったこと、足りなかったこと等)

小学校の先生方が指導をしている時に、何をどこまでアドバイスしてよいかを考えるのは難しかった。指導というよりは、共に活動するスタンスで関わっていたが、振り返るとそれでよかったのかと思う。

小学生が視聴するという一方で、どのような身なりで撮影すべきかということまで気が回らなかった。

③運動サポートで児童が身に付けたことは何か。

友達や先生と支え合って活動しようとする。他人の意見を自分や自分のチームの向上に役立てること。よい準備をして活動することや授業での試合や陸上記録会などの大会に臨むこと。

素直にアドバイスを受け止めることでの技能の向上。

④運動サポートの際に、自ら考えて工夫したこと

アドバイスする際には、児童に視線を合わせ、表情を見ながら話すことやよい動きをほめること。

おとなしかったり、授業での話合いで発言が少なかったり、運動が苦手そうであったりする子どもにこちらから積極的に声をかけること。

一緒にやってみようかと声をかけ、共に活動すること。

⑤今後、この経験をどのように生かせそうか、生かしたいか。

これからの教員生活で生徒と接する時に、どのような表情でどのような言葉をかけるかを考える際に役立つと考える。

教えようとする中で何が大切かということが整理されることを実感できた。どの職種に就いても、行かせることだと感じた。

先生方の子どもたちへの声のかけ方ややりとりを間近に見て、よいなとか、なるほどと思ったものを自身の模擬授業とか教育実習での授業などに生かしていきたい。

(6)まとめ

長期間にわたり、大学教員と学生とで一つの学校のサポートをさせていただくことで、授業内外の教師と子どもたちの関わりとはどのようなものであるかを目の当たりにすることができ、機会をとらえて解説等をすることもできた。これから教育実習に臨む者にとっては、貴重な事前学習の場となり、教育実習を終えた者にとっては、学び直し、おさらいをする場になった。ほとんどの者が教員になる予定であるが、指導技術を磨く場になったと考えられる。

学校にとって、学生が授業内外の活動に関わることは学校生活全体の活性化に繋がった旨のことをインタビューした全教員が回答したことから、大学を拠点とした学校サポートが価値ある取組であることが示唆された。個々への関わりを手厚くすること、資料等を作成することで、学びの質を高めると同時に学校教員の負担を軽減することができる。今後、このような取組を推進することで、学校現場が抱えるいろいろな課題を解決するとともに大学の存在価値を高めることができると考える。

2. 鹿屋市立小中一貫校花岡学園のサポート事例

(1) 鹿屋市立小中一貫校花岡学園について

花岡学園は、平成25年4月に、鹿屋市内の3つの小学校（鶴羽小・古江小・菅原小）と花岡中学校が統合して、施設一体型の小中一貫校として開校した。9年間の連続した学びの中で、ふるさと花岡を愛し、自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、健康でたくましく生きる児童生徒を育てることを学校教育目標に掲げている。小学校では体育専科教員を配置し、鹿屋体育大学と連携し、始業前の時間に運動に取り組むなど、体育・スポーツに関して積極的な取組が見られる。全校児童生徒数は261名で、小学校は172名、中学校は89名、各学年1学級編成である。



(2) 運動サポートの計画及び実施に向けての課題

5・6年生が参加する鹿屋市陸上記録会に向け、体育専科教員が中心となって教職員で連携を図り練習に取り組んでいるが、例年、入賞者等は少なく、児童の練習への参加意欲をいかに高め、取組についての達成感を味わわせるかが課題となっている。

コロナ禍により、学校行事への保護者の参画の在り方を見直さざるを得なくなった。校内持久走駅伝大会については、道路使用許可は当日だけということもあり、当日の運営をいかにスムーズに行うかということが課題となっている。

運動サポートにあたっての課題は主に以下の通りであった。

- ・ 放課後の陸上記録会練習で、生徒個々の活動意欲を高め大会に臨ませ、練習を頑張ったよかったという達成感を味わわせたい。運動技能が高い児童については上位入賞を果たさせたい。そのために、より専門的な技術指導を行いたい。
- ・ 校内持久走駅伝大会については、大学生にPTA保健体育部と連携して走路の安全確保をお願いしたい

(3) 運動サポートの実際

大学からのサポート内容を以下に示す。

① 放課後の鹿屋市陸上記録会に向けての練習のサポート

100M走、ハードル走、リレー、走り幅跳び、走り高跳びの練習のサポートを行った。学生2名が、各種目担当の教員の指導補助に当たった。



写真4 放課後の陸上記録会練習のサポートの様子等

② 校内持久走駅伝大会の運営のサポート

コース沿道での応援，児童生徒と走路の安全確保や誘導等を行った。大学教員 2 名，学生 12 名が，校内外の走路の比較的危険度の高い曲がり角等での誘導や応援等に当たった。



写真5 校内持久走駅伝大会の運営のサポートの様子等

(4) 運動授業サポートの成果と課題(小学校教員の視点から)

小学校教員のインタビュー結果を以下に示す。

①鹿屋体育大学と連携した運動サポートを実施しての成果

ア 放課後の鹿屋市陸上記録会に向けた練習のサポート

スポーツの基礎的なこと、大切な知識をもっている、またスポーツを好きであるお兄さん方が一緒に活動してくれること自体が児童のやる気を倍増させたと感じる。

入賞者は、例年 1~2 名であるが、今年度については全種目で合計 10 名であった。

イ 校内持久走駅伝大会の運営のサポート

管轄警察署の道路使用許可は大会当日のみであるため、校外の車道部分を走るのは本番のみである。緊張もあり走路を誤る生徒が出ることもあるが、所々に立っている大学生がよい目印となり、生徒が走路を誤ることがなかった。また、学生の皆さんの応援の力というものを感じた。それぞれ立っている場所から子どもたちの意欲を高めるような声かけをしていただいた。また、誘導等を一手に引き受けていただいたことで、保護者や地域の方については、応援に力を入れることができた。

多くの子どもたちが、記録を 10~20 秒縮めることができ、9 名の新記録が出た。これほど新記録が出るのは、なかなかないことである。

②鹿屋体育大学と連携した運動サポートの課題

もう少し人数を増やしていただけると有り難い。熱意をもって関わり、児童にもよく話しかけてくれるので、一緒に指導に当たる先生方にも、よい影響を与えられると考えるからである。

③鹿屋体育大学と連携した運動サポートで、児童が特に身に付けることができたと考えること

ウォーミングアップの重要性、またウォーミングアップ時の体の使い方等をよく理解できたと思う。手の振り方、足腰への力の入れ方、筋肉・関節の動かし方など。

④今後のサポートの在り方

できるのであれば、陸上記録会練習のサポート、校内持久走駅伝大会のサポート、いずれも毎年していただきたい。PTA保体部と学生との連携を図りながら、学校行事の充実を図っていきたい。

(5) 運動サポートの成果と課題(大学生の視点から)

学生へのインタビュー結果を以下に示す。

①運動サポートの成果(役立ったこと, 新たな気づき等)

陸上記録会練習に先生方が総出で関わることに驚いたし, 学校や先生方の雰囲気よさが子どもたちを前向きに練習に取り組ませることに繋がるのだろうと思った。

陸上競技は, 得手不得手がはっきりすると思うが, 苦手とか嫌いであっても, やりようによって一生懸命取り組ませることができると感じた。

体育的な行事はいろいろなことに留意して運営するのだということを知る貴重な機会となった。特に児童生徒の安全を確保するために, ここまで準備をするのだということを知り, これまで関わってくださった学校の先生方への感謝の思いも生まれた。また, 校外を走る際には, 道路使用許可を管轄の警察署から得なければならない, そのための書類等が必要であることを初めて知った。

②運動サポートの課題(困ったこと, 足りなかったこと等)

練習中にふざける児童にどのように注意をしてよいものか考えたことがあった。

明らかに走るのが苦手であろう生徒に, 頑張りや気安く声をかけてよいものか戸惑った。

持久走や駅伝で校外を走る生徒がいる中, 想像以上に車が多く通り, どうしたらよいかと考えることがあったが, こちらが何を言わなくてもドライバーの方が皆, とても良心的な対応をしてくださった。

③運動サポートで児童が身に付けたことは何か。

運動に親しむ態度や目標をもって頑張ろうとすること。

練習にねらいをもって前向きに取り組むこと。

持久走での苦しさに打ち勝つことや仲間の頑張りを応援すること。

④運動サポートの際に, 自ら考えて工夫したこと

子どもたちの安全を守るということ。

やる気や意欲を引き出す声かけ。

明らかに走るのが苦手であろう生徒

⑤今後, この経験をどのように生かせそうか, 生かしたいか。

子どもたちの姿から学ぶことは多いので, 教員や親となった際に, その姿勢を大切にしていきたい。

教員になるに当たっての生徒への関わり方, 特にどのような声かけをするかということに生かしていきたい。

行事運営に携わる際には, 先生方はもちろん, 保護者や地域の方々の協力を取り付けなければならないことを忘れていきたい。このことは, 企業等に就職しても同様のことが言えると思う。

(6)まとめ

放課後の陸上記録会に向けた練習, 体育的行事という体育授業と関連のある教科外の活動に参画させていただく機会を得たことで, 学生にとっては, 授業との関連, 教職員や保護者, 地域の方との連携について考える貴重な機会となったと考える. この時期の夕刻であれば, 部活動を引退した4年生などは都合を付けられる者も少ないので, 学校, 大学双方にとってメリットのある取組で, 持続可能なものできそうである. 学校側も成果を実感し, 同様の取組の継続を望んでいることから, 工夫を図りながら取組を継続できればよいと考える.

3. 鹿屋市立吾平小学校のサポート事例

(1) 鹿屋市立吾平小学校について

吾平小学校は、令和4年度に150周年を迎える伝統ある学校である。「自ら学びに向かい、友達と共に取り組み、新しい時代を生き抜く吾平の子どもを育てる」ことを学校教育目標に掲げ、「自立、協働、創造」をキーワードに、学力向上・体力向上に向けて、様々な取組がなされている。児童数は、257名で、各学年1～2学級で編成されている。



(2) 運動サポートの計画及び実施に向けての課題

体力向上への取組に関しては、なわ跳び運動やチャレンジかごしまへの取組など、積極的に行われている。特に地域の小中一貫の取組として「体幹」を鍛えることを重視している。

今回は、子どもの発育発達段階に応じた、具体的な体幹トレーニングの方法についてレクチャーするため、夏季休業期間中の校内職員研修において、体幹トレーニング及び鹿屋体育大学がKKB鹿児島放送との共同で開発したエクササイズ「Exseed」を実施することとした。

(3) 校内職員研修の実際

研修内容を以下に示す。

① 体幹トレーニング

吾平小学校の児童の体力・運動能力や姿勢、普段の運動遊びの状況等を、各学年の担任教員から聞き取りを行いながら、体育の準備運動や体づくり運動領域で活用できる体幹を鍛えることができる運動遊びの方法について、レクチャーした。

特に今回は、運動が苦手、嫌いという児童に配慮し、円形で実施する方法を紹介した。円形の隊形は、教員と児童、児童同士の距離感を平等に維持することができ、他者の目を気にせず運動できる利点がある。教員は、運動のねらい・目的をしっかりと把握しながらも、辛く苦しい「トレーニング」にならないように、遊びやゲームの要素を取り入れながらの柔軟運動や自重でできる体幹を鍛えられる運動



を紹介した。また、学校備品のストレッチポール(ハーフカット)を用いて遊びながら、体幹を鍛える方法についても指導した。

② Exseed

Exseed は約4分間の運動で、走る、跳ぶなどに含まれる動きで構成され、正しいフォームで、しっかりと身体を動かすことで、効果が期待できるように作られている。音楽に合わせてダンス風アレンジすることで、運動の得意・不得意に関わらず、気軽に親しめるように工夫している。今回は、小学生低学年向けの EASY バージョンと高学年向けの BASIC バージョンをレクチャーした。体幹のみならず、上半身や下半身の筋肉をしっかり使う運動で、続けて実施することで、筋力アップのみならず、身体を巧みに使うコーディネーション力(協調性)や全身持久力の向上も期待できることを伝えた(資料2)。

2021/8/20

鹿屋市立吾平小学校 校内研修



国立大学法人 鹿屋体育大学
NIFS NATIONAL INSTITUTE OF FITNESS AND SPORTS IN KANOKU

1. Exseed について



「Exseedエクシード」は、運動を「Exercise(エクササイズ)」と称する「Seed(シード)」を組み合わせる言葉です。
種から成長できるように、「運動の種」を種き、子どもの頃から自然と運動しつづけるに、将来的に一生運動する日本人が増えるとともに、未来のアスリートが輩出していくという思いを込めました。

<http://www.kkb.co.jp/exseed/>

近年、子どもの体力が低下しているというデータが示されています。これは、日常生活での活動量が少なくなっていることが要因として挙げられます。子どもの頃の運動習慣は、大人になってからも影響するといわれているため、日常生活で意図的に身体活動量を増やす必要があります。

その手段の一つに運動があります。子どもの頃から身体を動かす習慣を取り入れることで自然と運動する習慣を身に付けてほしいということから『Exseed』のプロジェクトは始まりました。

『Exseed』は5分間の運動で、走る、跳ぶなどに含まれる動きで構成されています。正しいフォームで、しっかりと身体を動かすことで、効果が期待できるように作られています。音楽に合わせてダンス風アレンジし、運動が好きな子、そうでない子、そして何かと忙しい大人の皆さんに気軽に親しめるようにしています。

1日短時間でも楽しく運動に取り組み、基礎的な身体の動きを身に付け、さまざまなスポーツを行うための土台(基礎体力)になる“種まき”になることを夢みて“Exseed”は誕生しました。



<http://www.kkb.co.jp/exseed/>より

2. 指導について

Exseed は EASY バージョン、BASIC バージョン、HARD バージョンの3種類があります。約4分間の運動ですが、体幹のみならず、上半身や下半身の筋肉をしっかり使う運動で、続けて実施していただくと、筋力アップのみならず、身体を巧みに使うコーディネーション力(協調性)や全身持久力の向上も期待できます。

指導の際には、音楽に乗せて、ご担当の先生が示範を見せながら児童の皆さんと一緒に動いていただいても結構です。動画を活用いただいて、児童の皆さんがスクリーンや電子黒板などの画面を見ながら動いていただいても良いかと思えます。



EASY ver
低学年



<https://youtu.be/BRnEFv1LdnM>



BASIC ver
中・高学年



https://youtu.be/A7ol_yEajWk



HARD ver
高学年



<https://youtu.be/8TMAT588pIU>

何か不明な点等ございましたら、下記まで連絡をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【連絡先】
鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系
講師 桜 ちか子
電話 0994-46-4971 FAX 0994-46-4971
e-mail: chichicoco@nifs-k.ac.jp

資料2 Exseed 説明の配付資料

(4) 運動授業サポートの成果と課題(小学校教員の視点から)

- ・児童の体力向上のみならず, 私たち教師の健康の保持増進のためにも楽しく活用できる内容だった
- ・「Exseed」は音楽の授業とも連携して, 運動会での表現運動の発表へと繋げたい。



※令和3年10月3日の秋季運動会で, 3, 4年生が「Exseed」が披露された。

(5) まとめ

今回は, 教職員向けの研修であったが, 小学校では, 中学校・高等学校と異なり, 保健体育科の教員が体育を指導するわけではないため, 子ども達の運動課題は把握していても, それを改善・向上させるための具体的な運動の方法や教材, 場づくり等の情報や知識が潤沢であるとはいえない。そのようなことから, このような体育大学で開発した教材や情報等を提供する場を設けることは, 大変重要である。今後も, 各小学校での校内職員研修をはじめ, 大学主催で, 小学校教員を対象とした研修会の開催等を検討する必要があることが示唆された。

4. 垂水市立新城小学校のサポート事例

(1) 垂水市立新城小学校について

新城小学校は、創立 150 周年を迎える伝統ある小学校である。現在、全校児童数が 21 名であり、複式学級で構成されている。「楽しく学び心豊かでたくましくふるさと大切にする新城の子どもを育成する」ことを学校教育目標に掲げ、1 人 1 台のタブレット端末の利活用をはじめ、豊かな自然や歴史・文化を生かした景観学習にも継続的に取り組まれている。



(2) 運動サポートの計画及び実施に向けての課題

児童が 21 名と少ないため、教職員数が少なく、体育的行事等については、20 代の期限付教諭が校長、教頭のサポートを受けながらリードしている状況がある。9 月末の運動会で高まったと考えられる児童の走りへの意欲や探究心を維持・向上させるため、また、5・6年生については、10月末の垂水市陸上記録会への取組を充実させるために、何らかの仕掛けをしたい。

(3) 運動サポートの実際

大学からのサポート内容を以下に示す。

① 体育授業のサポート

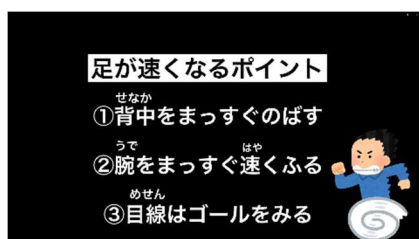
9 月末の運動会で高まったと考えられる児童の走りへの意欲や探究心を維持・向上させるため、また、5・6 年生については、10月末の垂水市陸上記録会への取組を充実させるために、全校体育授業としての新城小学校の全教員による走り方教室に、大学教員 1 名、学生 3 名が参画した。授業中盤では、1・2 年生 6 名、3・4 年生 6 名、5・6 年生 9 名にそれぞれ学生が 1 名ずつ付いて、走り方のポイント等について解説し、練習に取り組んだ。



写真6 体育授業のサポートの様子

② 走り方に関する学習資料の作成

動画による学習資料を作成し、提供した。提供した資料は、動画に動きのポイント等を文字等で示したものである。タブレットを用いて児童に視聴させ、動きのポイントの説明時に活用した。



資料3 走り方に関する学習資料

(4) 運動授業サポートの成果と課題(小学校教員の視点から)

小学校教員のインタビュー結果を以下に示す。

①鹿屋体育大学と連携した運動サポートを実施しての成果

年齢が近い上に運動・スポーツを専門とする体育大生に関わってもらえることそのものが児童の走ることへの意欲をかき立てていた。

②鹿屋体育大学と連携した運動サポートの課題

年齢が近い上に運動・スポーツを専門とする体育大生のサポートを受けることは教育効果を考えてもありがたいため、今後、対応する種目を増やしていきたい。具体的には、水泳や器械運動などをお願いしたい。学生との事前打合せを念入りに行うことができるとなるとおよびと感じた。

③鹿屋体育大学と連携した運動サポートで、児童が特に身に付けることができたこと考えること

授業の最後に児童全員、50M走のタイム測定を行ったところ、ほとんどの児童が50M走のベストタイムを更新できた。

④今後のサポートの在り方

陸上競技をはじめ、水泳や器械運動などにおいて体育大生による示範を観察することができるだけでも、児童にとっては学習意欲喚起になるし、正しい、美しい動きやフォームを生で見ることでできる貴重な機会となる。

小学校教員の総意として、次年度以降、最も継続していきたい取組が体育大生の授業サポート等と農業高生の授業サポート等である。

(5) 運動サポートの成果と課題(大学生の視点から)

学生へのインタビュー結果を以下に示す。

①運動サポートの成果(役立ったこと、新たな気づき等)

児童や先生方、学校の雰囲気等から、小学校教員の魅力に気付かされた。指導に当たっては、大学での模擬授業やスポーツ教室、教育実習の経験を生かすことができた。

教育実習の経験を踏まえて、できる限りシンプルに動きのポイントを説明することを心がけたところ、子どもたちの動きがよくなっていくことがわかり嬉しかった。

説明を一生懸命聞いて練習に取り組んでくれた子どもたちの姿に感動した。最後のタイム測定で関わった子どもたちが記録を伸ばし喜んでる姿を見て、教師のやりがいを実感することができた。

②運動サポートの課題(困ったこと, 足りなかったこと等)

思っていた以上に長い時間, 指導を任せていただき, 戸惑った. 小学生ということで, 説明していることが理解できているか不安はあったが, つたない説明であっても, どの児童もよく話を聞き, 熱心に練習等に取り組んでくれた.

動きのポイントを説明する時の子どもたちの眼差しがプレッシャーとなり, 緊張し, 満足いく説明等ができなかったが, 子どもたちは熱心に練習に取り組んでくれた.

「じゃあ, 体育大の皆さんと一緒に。」といきなり任される形となったので, 少々戸惑ってしまった. 心の準備はしていたものの, 動きの説明というのはなかなか難しいものであることを実感した.

③運動サポートで児童が身に付けたことは何か.

実際にタイムが上がって喜んでいる児童と先生方の姿を見られた. 友達や先生方と協力して技能を高めようとする態度が, このような取組を通して高まるのだと感じた.

説明した動きのポイントを気を付けて走る姿などから, よりよい走り方になっていることがわかった. 子どもたちが動きのポイントをつぶやきながら練習に取り組んでいたのも, 知識的な内容も高まったのではないかと思った.

走る時の姿勢や腕の振り方が身に付いたと思う. 何人もの児童がタイムが上がったことを報告してくれた.

④運動サポートの際に, 自ら考えて工夫したこと

わかりやすい説明をすること, また, 身振り手振りを大切にすること.

いいね, よかったよといった肯定的な言葉をかけながら, 一緒に活動すること.

立ち位置や児童の目線で話をすること, できるだけ多く声かけをすることなどを意識した.

⑤今後, この経験をどのように生かせそうか, 生かしたいか.

少人数の小学生に関わることで, 教員としての行動の最も基本的なことを学べたというか, 再確認できたと思うので大切にしていきたい.

年齢の低い子どもほど, 褒めたり認めたりすることで動きがグッとよくなることが理解できた. 他の学校の子どもたちとの関わりでも大切にしたい.

この経験は教員でなくとも, 人との関わりを考える上で貴重なものとなった.

(6)まとめ

単発の取組ではあったが、小学校の児童、教職員、大学の学生、教員にとってそれぞれ得るもののある実践となった。垂水市教育委員会や地元の新聞社も、この取組に注目し、視察・取材に来られた。今後、大学を拠点とした学校サポートを充実させることは、大学のできる地域貢献の持続可能な取組であることを確認できた。

本事業で運動サポートをする初めての取組であり、入念な準備、打合せ等の重要性を確認することができ、その後の取組を充実させることに繋がった。

